

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私の話を聴いて欲しい。私にして欲しいことを訊いて欲しい。私自身を、もっと理解して欲しい。これは出来ない決め付けしないで欲しい。私を‘今’と言う時を生きさせて欲しい。右の言葉を基本理念として、いのち輝く健やかな暮らしなれと、共に歩んで行きたい。」と利用者の言葉そのものを理念に掲げています。	○ 今一度、利用者本位である「地域と共に」・「相互扶助の考え方」を實踐できる新たな理念と行動指針を創造して行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念は管理者の原案をオープニングスタッフ全員の意見を参考に完成しましたが、今一度、言葉の意味の根源を問い、人と人が繋がりエンパワメントパワーが高まる人間形成によるネットワークシステムの働き方を開発実施しているところです。	○ 各ユニットのケア会議を毎月開催しています。その中で事例や時節に即しての介護方針を話し合い、コラボレーションとしての心理援助も見据えて展開したいと考えています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には入居契約時、重要事項の説明書やパンフレットなどで説明を行います。又、地域推進会議でも地域ぐるみでの認知症ケアの予防推進方法を啓発しています。	○ ホームが拓かれた施設であることを家族や地域に伝え、理念の根本義を展開する方法論や、人の命を守り、自分の命も守る相互扶助の精神を行動の指針に据え、力強くアピールして行きたいと考えています。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	いつでも、利用者を訪ねて貰えるように門戸を開放しています。生活支援ハウスの入居者との交流や近隣のお店などにも積極的に出かけ出合いの機会をつくっています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当法人の事業所に地元採用者が職員として多数採用しており、地元の人々と交流は自然発生的に多く、地域の夏祭りや盆踊り、幼稚園の運動会・敬老の日、お茶会、ディサービスの合同夏祭りなど地元の人々と交流に努めています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		職員には白紙の自己評価表を事前に配布し、それぞれ評価を記入してもらい、管理者が意見をまとめて評価しています。又、昨年の外部評価での改善項目に対し、改善計画を作成し改善に向けて実践しています。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		今後も、運営推進会議では相互扶助型地域ネットサービスへの展開や事業者としての方向性を事例などで説明しながらサービスの質の向上に取り組んでいきたいと思えます。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	○	虐待の疑いなどあれば、地域包括支援センターに報告・連絡・相談するようにしています。教育システムの配布があれば随時学習の機会を設け、新たな施策の検討に役立てたいと思ってます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際や解約をする際には、利用者や家族の不安や疑問点を必ず尋ねることに専念します。管理者が責任をもって十分な説明を行い理解・納得してもらえるように仕事しています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談や意見を表せるように相談窓口の電話番号を記載していますが、担当職員をはじめ、施設長・管理者・事務長が利用者の相談や不満、苦情を随時聞き、検討し運営に反映するよう改善して行きます。</p>	<p>各利用者には担当職員を決め、管理者及び副管理者が直接窓口となって、意見、不満、苦情を聞いて、ケースカンファレンスなどで課題に挙げ、議論検討を経て利用者の意見の反映に努めています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>基本的に、毎月、家族様には利用料のお支払いで来苑して頂くようお願いしています。その際、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等についても報告をしています。</p>	<p>金銭管理については、その都度、領収書など添付して出納表に確認の署名捺印を頂いています。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談や意見を表せるように相談窓口の電話番号を記載しています。施設長、管理者、事務長が利用者の相談や不満、苦情を聞き、運営に反映するよう指揮しています。</p>	<p>利用者と家族の意見の食い違いが見られる時は、今現在、施設での共同生活の実際や事情を家族に伝え、親和的な話し合いの場を持ち、理解・協力を呼びかける機会をつくっています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、施設合同運営推進会議を開催し、各施設の、運営に関する職員の意見や提案を発表し法人に上げています。</p>	<p>毎月のケース会議の後、業務・リスク・ストレスマネジメントの場面で意見・提案などを話し合えるようにしています。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、家族が安心して仕事に行けるようにと、医療機関への受診介護や訪問調査の立会い、区役所への申請代行など柔軟に対応するように務めています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年はチームワークの編成力を高める為、施設内異動で施設外異動等による影響への配慮をしました。基本的には、ユニット別職員配置に努めています。		コラボレーションとしての心理学的援助を行い、チームの繋がりを育成し、利用者へのダメージを防ぎたいと思っています。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を選出し、段階に応じて外部研修や資格取得を奨励指示しています。法人本部で施設内研修の年間計画を立て実施しています。又、制度改定による、認知症ケア会議も順次行っています。		自己形成から人間形成にまで意識を高め、働きながらトレーニングできる喜びを矜持したいと願っています。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との直接的な交流はありません。包括支援センターからは各ホームでは声が上がっているが何処の施設がリーダーシップを発揮するかが問題であると聞き及んでいます。		機会が熟せば、是非、地域グループホーム部会を結成させたいと思います。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	それぞれの職員の意見を十分聴くなどして、学習の機会を設け、利用者サービスのストレスと援助者間のストレスなど分別した上、それぞれに職業としてのモラル、作法など話し合う風土を育成したいと思っています。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの資格取得者には、資格手当を給与に反映して向上心を高められるよう給与改定をしています。又、資格取得への為にローテーションにも配慮して全面協力をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談に不安なこと、求めていること等、又、どのように暮らしたいのかを出来るだけ本人自身から聞かせて頂き確認します。施設見学も体験してもらい、訪問面談もお願いして信頼関係をゆつくりと築いて行きます。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談には家族が困っていること、求めていることを確認し、訪問面談や施設見学を経て、重要事項の説明書やパンフレットなどで、運営理念・運営方針、利用料やサービスの内容を信頼を得るよう納得されるまで説明します。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、適切な支援サービスの選択をしてもらえるよう他のサービスの紹介も行います。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり契約せず、お試し体験の機会を経て、本人や家族が納得された上、本契約しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることの支援を念頭におきながら、失敗を繰り返しても其の悲しさを共有し、決して寂しくならないよう、命の尊厳と尊厳でふれあいながら大切な時間を生き活きと過ごして行きます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共助の方向性を正しく育てるために、報告・連絡・相談を緊密にし、本人を共に支えあう家族との関係を継続します。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のよりよい関係が継続できるように、本人の生活状況や課題を伝えたり、家族の問題なども傾聴し、ホームが担える事を提示して、より良い暮らしを楽しめるよう支援して参ります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が許される限り、関係継続には全面協力します。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員には疾患別ケアにより症状を理解しておくことと、居場所づくりや利用者同士の関係性に配慮し、カンファレンスなどで話し合い、気配り、目配りをもって行動します。	○	職員には疾患別ケアの学習を継続します。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされる利用者や家族には、関係が継続されるよう相談援助を継続しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのその時の意向を尋ね、無理やりな活動参加は求めません。本人の気持ちに寄り添い、あるがままの暮らし方を支えます。	○ 職員は穏やかな言葉使いと行動で、本人のスピリットが輝けるようチームアプローチのレベルを全員で昇華させたいと願っています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、介護支援専門員、関係者等から情報を収集しこれまでの暮らしの把握に努めています。	センター方式などのアセスメントツールの使用を推進します。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	共同生活での1日の過ごし方、心身状態による現況はケースカンファレンス等で話し合い、総合的な意見の総意により把握しています。	利用者一人ひとりの生活が広がるよう、個別支援ネットワークを創造して行きます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ICF(国際生活機能分類)による「生活機能向上シート」を使用しながら課題を設定し、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿い、生き生きと生活を楽しめるように関係者、家族、本人と話し合い、介護計画に反映しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの評価は毎月行いますが、見直し以前に変化が生じた場合は、本人、家族、関係者と話し合い現状に即した新たな介護計画を作成します。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、ケース記録等を整備し介護の実際の中での気づきや工夫・結果などの情報を共有しながら介護計画の見直しに反映しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ユニット間の交流や、施設内の別事業のフロを利用したり、2階のテラスでの植物への水やりや収穫の体験等ができます。又、向かいの同法人が運営する老人福祉センターへのカラオケにも参加されます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の訪問や交番所や消防、小学校、中学校、幼稚園、保育園等の地域資源との協働の機会を図っています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主治医から医療面からディケアの必要があるとの事で、本人と家族の意向により他のサービスの活用経過があります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからの要請で、病院まで訪問面談に同行し、ご利用に繋がった利用者もおられます。又、安心サポートの御利用者が数名おられ、毎月の訪問で利用者の権利擁護支援がなされています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医の受診介護は家族にお願いしますが、現状は殆ど施設が支援しています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症になられた人と、その家族の会が推薦する認知症の専門医と契約を交わし、かかりつけ医の無い利用者には専門医に毎月往診を願い、医学的管理の支援をしてもらってます。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護職と相談しながら、日常の健康管理や医療活用への支援を継続しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院中は、出来る限り面談に行き、洗濯物などの差し入れ等を積極的に行います。又、担当医師とも面談し、早期退院に向けての連携に努めています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは行わない方針で、急変された時は医療に繋げることにしています。しかしながら、重度化で医療管理が必要だが治療しない方針の利用者には療養型施設への説明を行いながら継続して介護させていただきます。		今後、正看護師の採用がなされ、医療連携の体制が確実になれば終末ケアもこなして行きたいと考えています。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化された利用者の医療行為は出来ないので変化の気づきを強化し、少しでも普段と違う症状があれば病院受診をして担当医師に繋がます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	プライマルケアを守るため、本人や家族の了解を得て、地域包括支援センターや関係者に看護サマリーを発行したり介護計画等の情報交換を行います。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一同、常に言葉を整理して発言するように呼びかけています。又、利用者のプライバシーや個人情報の取り扱いに関しての、秘密保持誓約書を交わしています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	担当職員と計画作成者は、本人や家族の思いや希望を尊重し、絶対自己決定の原則を貫き、自由自在の暮らしが出来るように支援して行きます。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当者職員はその日の利用者の心身状況や希望にそって、日々のその人らしい暮らしを支援して行きます。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	経済的な諸事情もあり、利用者の殆どがホームの散髪ボランティアをご利用されます。又、理容・美容への利用を望まれる方は、行けるように支援に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめることが出来るよう、完全調理をホームで行い、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の病態や共同生活に支障が無ければ、本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗をさせないケアを目指し、本人の排泄パターンを把握し、排尿誘導訓練療法を行っています。		膀胱の蓄尿機能保持にも留意し、便秘ケアを一人ひとりオーダーメイドしています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴の機会があり、心身状況や気分、タイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援しています。尚、時間帯については職員配置事情により、夜間帯は難しい現状です。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう、本人本意に徹し支援しています。		食べる事と、寝る事と、お喋りする事と、家族と繋がってる事が、お年寄りのこよなき念願と定め、支援の中核に据えています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の生活の中で家事を中心にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張りのある生活を目指しています。具体的には仏壇の前でお経を唱えたり、家族と携帯電話での通話を楽しまれたり、近所に散歩をしたり、川柳の読み語りを聞き感想を述べ合ったり、スーパーに買い物に行ったり、近所の喫茶店に出かけるなどの支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	任意で金銭管理預かり契約を結ばれた利用者には、金銭を使うことを希望されたら金銭出納からの出金でいつでも使えるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺の神社、お寺、駅裏公園の並木道への散歩、同施設の2階の屋外テラス、真向かいの老人福祉センターへ訪問支援をしています。初詣、遠足のイベントにも出かけています。特に地元にある有名な桜の名所に出かけるのが利用者の楽しみになっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生活を広げてもらう為に、年間行事計画を立て、個別外食ツアーや緑地公園、大阪城公園などに出向きます。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎはもとより、年賀状づくりなどの支援も行います。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちの来訪があれば、居心地よく過ごしてもらう為に、椅子の用意や、お茶、コーヒーの接待のおもてなしを行います。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基準となる具体的な行為の内容を、運営者及び職員は理解しており安心と安全のケアに取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		安全ピンやマグネットなどの使用は控えるように申し合わせています。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		事故を起こさないセーフネットを日頃から話し合い行動することが大切と心得ています。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応の訓練を早急に行う。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		地域の人々の協力は現状では期待できませんが推進会議で議案にしたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの起りうるリスクを家族等に説明し、利用者にとって快適な生活でありますようにと願いつつ、リスクは起りうるものとして大機大用の心構えを持って対応して行きます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックや排便状況をチェックし体調や気分の変化の早期発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の一人ひとりの服薬情報を、いつでも検索できるように整理整頓してあり、服薬による症状の変化を観察し担当医に状態を伝えるなどして薬の微調整をして頂いています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腸の蠕動を促せるよう、日常生活の中で体を動かすように、清掃活動やラジオ体操を一緒に行ったり、散歩を奨励しています。又、バナナやヨーグルトなどの食品も常にメニューに上がります。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯周病にならないように、一人ひとりの口腔状態や力に応じ、毎食後の口腔ケアや歯科受診を支援をしています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスメニューをを考え、食べる量や1日の水分量をチェックし一人ひとりの状態や力を見極め、習慣に応じた支援に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	国や市の広報感染症マニュアルを参考に、予防や対応の取り決めに基づいて実践して参ります。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材は概ねその日に配達してもらい、調理後2時間以内に摂取する取り決めをしています。又、食器やまな板など、熱湯処理、ハイター消毒、日光にあてるなどを日常的に行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	各ユニットの玄関のインターホーンにはAとBの表示で区別が出来るようにしています。又、玄関先には季節の花や野菜を育てています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	貼り絵や飾り物を工夫し季節感を演出したり、二重カーテンを利用して音や光にも不快な事がないように配慮しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にはソファや長椅子、椅子など置き、誰でもがいつでも寛げるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたものや好み のものを活かして持ち込んで もらうようお願いしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気 のよどみがないよう換 気に努め、温度調節は、 外気温と大きな差がな いよう配慮し、利用者 の状況に応じてこまめ に行っている	トイレは毎朝清掃しま す。居室には換気循環装 置が設置してあります。 空調設備もこまめに適 度な温度に管理してい ます。又、共用部分には オゾン発生装置が設置 されています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの 身体機能を活かして、 安全かつできるだけ自 立した生活が送れるよ うに工夫している	廊下、トイレ、浴室に は手すりを設置。車椅子 や歩行器使用も可能な ようにフラットな床に 設けております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力 を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮 らせるように工夫して いる	季節を感じてもらえる ように、貼り絵や置物 を工夫し環境に配慮し ています。又、日常生 活の中で、積極的な声 かけによる説明や介入 をその都度行い、混 乱や失敗を未然に防 ぐよう行動して参 ります。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベラン ダを利用者が楽しん だり、活動できるように 活かしている	建物の外周りの空間 を活用して、季節の野 菜や植物を育てていま す。又、2階のベラン ダを活かして、レクリ ーションや日光浴を 楽しめします。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

コラボレーションとしての地域社会との共生を意識した上、疾患別ケアを推進し、チームアプローチへのシステム参加による修練を重ね、より良いサービスの向上に努めています。